2017年 地域とともに 地域のために

耳原総合病院

医療難民出さない決意

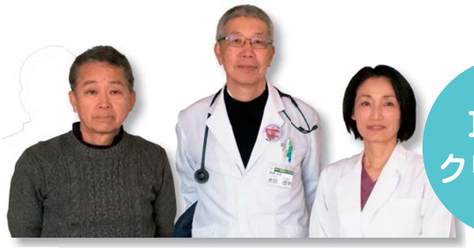
病院長　奥村　伸一

新病院スタートから間もなく丸2年を迎えます。引き続きたくさんの救急車の受入れ要請や出産希望、法人内診療所と地域の開業医さんから数多くの紹介をいただくことができています。この期待にしっかりと応えられるよう、医療の質の向上をめざして疾患別センター（消化器、循環器、腎・透析）に続いて「総合診療センター」と「がん支援センター」を立ち上げました。無差別・平等の医療の実践として、医療難民・がん難民を出さないため、2017年も職員一同頑張ります。

耳原鳳クリニック

初心に立ち戻って

事務長　大隅　利隆



昨年は経済的事由による受診の遅れから結果的に命を落とされた患者さんを法人で経験しました。

我々は人権を守る、命の平等を掲げて医療・介護活動を続けています。しかし地域に目を向けるとさまざまな理由で病気になっても患者になれない方がまだまだおられると思います。

医療の門を自力でくぐっていただけない方に、どうしたら医療にたどり着いていただけるか？

初心に立ち戻り、地域に目を向け足を出して、耳原があってよかったと思ってもらえるような1年にしていきたいと思います。

みみはら高砂クリニック

急病対応だけでなく健康相談対応めざして

所長　緒方　浩美

2016年5月から高砂クリニックと老松診療所が統合され、総合病院エリアの内科・小児科・整形外科・皮膚科の外来として新たなスタートをきりました。急病対応や慢性疾患の治療だけでなく子どもからお年寄りまで、食べる、寝る、動く、を支える、地域の健康度のボトムアップに貢献できる相談所作りもめざしています。健康運動療法士（写真の3人）による体組成評価や運動指導、管理栄養士の栄養相談も始めました。入院治療はこれから短期間になる時代だからこそクリニックでの対応力が求められる時代に変わりつつあります。皆さんの声、聞かせてください。

みみはらファミリークリニック

医療介護ネットワークをさらに

所長　影山　浩

当診療所は堺市北区と松原市の一部を診療圏とし、外来・ケアマネージャー・デイケア・訪問看護の各部門が連携して、患者さん・利用者さんの健康面、生活面を見守っています。

通院が困難となり、こちらから訪問する患者さんが増えています。今年は近隣に同仁会グループで2カ所目となるサービス付き高齢者住宅「ひまわりの家　蔵前」がオープンします。これからも地域の医療・介護ネットワークの一員としてその役割を果たしていきます。

耳原高石診療所

高石に「耳原あり」と言われるように

所長　松葉　和己

堺市以外では唯一の診療所が、高石の地で産声をあげて、今年の秋で20年を迎えます。医療だけでスタートしましたが、ケアプラン・デイケアも展開し高石での「耳原」の知名度も広がってきています。

ここ数年、行政からの困難事例をはじめ、大きな病院や介護の事業所からの紹介も増えてきています。

高石に「耳原の診療所があって良かった」と思われるように、更に飛躍の年としていきます。

耳原鍼灸院

東洋医学の背骨　老荘思想（ろうそう）
「素門　上古天真論」「恬惔虚無　真気従之　精神内守　病安従来！」

院長　和久　英人

「惔（たん）」の字がりっしんべんで書かれています。心の炎が揺れ動いて動揺している姿。これをさんずいにすると「淡い・淡白・さらっとしている」という意味になります。「恬惔」になると「心がさっぱりしてわだかまりがない」という意味になります。なかなか出来そうにありませんが、迷ったり動揺したり苦しんでもいいのです。何故なら、「惔」の字は心の炎が燃えている姿ですから。それでもそれに拘らず自分の心をさっぱりと澱みなく流す生き方が出来れば、身体の中のエネルギーが十分に働き、どうして病にかかる事があろうか、絶対にかかりませんよと書かれています。ぜひとも一度ご体験ください。

耳原訪問看護ステーション

知識と優しさと明るさを持って

看護師長　宮川　光代

厚生労働省は、社会保障費抑制を目的に、「ときどき入院、ほぼ在宅」の方針を打ち出しています。社会保障費抑制を目的とした入院日数の短縮化や必要な医療が受けられないことには反対ですが、住み慣れたところでその人らしく生活できる「ときどき入院、ほぼ在宅」は自然なことであり、訪問看護の専門性を活かしながら支援していきたいと思っています。

在宅で生活したくても、介護力や経済面で困難なことも多いので、地域の事業所との連携をさらに深めながら可能性を引き出していきたいと考えています。友の会のみなさんのお力もぜひお貸しください。

介護保険では、ここまでしかできない、など制度にしばられがちになりますが、利用者さんの生きて来られた歴史を知り、思いに寄り添い、その人らしい生活が送れているかに思いを馳せながら訪問看護を行っていきたいと思います。

事業の要は「人財」です。一人一人の職員がやりがいを持ち、知識と優しさと明るさを持って利用者さん宅を訪問し療養生活の援助ができるよう頑張ります。本年もよろしくお願いいたします。

介護老人保健施設みみはら

開設19年目 さらに地域の期待に応えて

所長代行　斉藤　和則

地域に根ざした生活施設をめざし、皆さんに支えられ利用者・ご家族とともに職員も笑顔で今年は開設19年目を迎えます。老健みみはらに関わる全てのかたに感謝申し上げます。

当施設は、リハビリに特化し、地域の利用者が健康で安心して生活できるように、日常の生活に必要なケアサービスを専門職集団で行っています。

介護でお困りの際は、一人で悩まず・抱え込まず気軽に当施設にご相談下さい。

地域の皆さんから必要とされる施設をめざして今後も頑張っていきます。よろしくお願い致します。

耳原歯科診療所

新築移転 ご期待ください

所長　橋本　祐介

2017年5月、大仙西町に耳原歯科診療所が生まれ変わります。

これまでの歯科医療を継続し、昨今重要性がよく話題になる医科歯科介護の連携も、より強化して地域包括ケア時代に向けた展開をめざします。

新しい耳原歯科診療所では、今までよりも広い空間で皆さんに歯科治療を受けていただけるようになり、また歯科用CTを導入し幅広い正確な診断が可能になります。規模拡大によりスタッフを増員する予定です。予防歯科・訪問診療など、時代のニーズに合わせた歯科医療に、すばやく適応できるような体制となります。これまで同様、「待たせない、断らない」を合言葉として、あってよかった、かかってよかったと思っていただけるような歯科診療所をめざしてスタッフ一丸となって頑張ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

耳原ヘルパーステーション（訪問介護）

利用者さんの生活を守るために

ヘルパー統括科長　小川　頼子

堺市で、いよいよ「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まります。

安かろう・悪かろうでは安心・安全な在宅生活は守られません。

4月からの要支援1・2の総合事業移行にともない、国は将来、要介護1・2の方の生活援助も介護保険から切り離そうとしています。私達介護職員は、利用者の生活を守るため、介護保険制度改善に向け今年も取り組んで行きたいと思います。

利用者さんお一人お一人への援助の形があり、その人の心に寄り添えるようなケアを心がけ、このヘルパーに来てもらってよかったと思っていただけるよう頑張ります。

居宅介護支援事業所

地域の介護相談センターへ

ケアマネージャー　科長　甘田　尚子

2017年4月から、要支援1・2の方が最も多く利用されている訪問介護やデイサービスが介護保険制度から外され、市町村の行う「総合事業」へ移行され、堺市でも実施が始まります。

さらに複雑化する介護保険制度、「どのように申請し介護サービスを受ければいいか分からない」「今はサービスの利用を考えていないがこの先に不安がある」「近所の方の姿が最近みられなくなった、元気にしているか心配」そんな時は、一人で抱え悩まずに気軽に耳原のケアプランセンターにご相談ください。